

文庫本ブームとしてのライトノベルブーム ——角川系レーベルの刊行点数を視座にして

高島健一郎（名古屋大学大学院生）

概要

本発表では、2000年代初頭の文化史的なトピックスの1つである「ライトノベルブーム」を一種の文庫本ブームとして扱い、そのシェアの七割をも占めると言われている角川グループホールディングス傘下の出版レーベルに絞って、その刊行点数の調査、その刊行状況から推測されるブームの有り様について考察する。そして、過去の文庫本ブームと比較する中で、ライトノベルが書籍としても作品の価値としても、絶版を含めたその短命さが際立っていることも見えてくる。

キーワード

ライトノベル、出版文化史、文庫本ブーム、絶版

※図表は当日、別に配布いたします。

考察

①調査対象と調査期間

- ・角川スニーカー文庫（角川書店）
- ・富士見ファンタジア文庫（富士見書房）
- ・電撃文庫（メディアワークス（現アスキー・メディアワークス））
- ・ファミ通文庫（アスペクト（アスキー）→エンターブレイン）。

以上の4レーベルについて、その刊行開始から2007年12月末まで。議論を刊行点数に絞り、発行部数・売上げには言及しない方針。

②刊行点数と作家数の推移から

- ・電撃文庫の躍進
 - ・1ヶ月10本超のタイトル（刊行点数）
 - ・大量生産を支える多くの作家陣
- 量による個性化。多様性に対する対応。

- ・電撃と対照的な角川スニーカー文庫
 - ・有名タイトルの露出度に比して，少ない刊行点数
 - ・刊行点数÷作家数で見えてくる戦略性
- 量に埋もれない個性化への志向

③作家の囲い込み（？）

- ・複数レーベルに執筆する作家の少ない現状
 - ・囲い込み傾向の電撃文庫と，またも対照的な角川スニーカー文庫
- レーベルの個性と露出度を維持する方針の明確な違い

④戦後直後と1970年代の文庫本ブームと比較して

- ・戦後直後…新潮，岩波，角川
 - ・1970年代…新潮，岩波，角川，中公
- 出版界をとりまく設備・システムの歴史的な差異
「ライトノベル」という新ジャンル（？）との明確な差異

⑤ライトノベルの短命さ

- ・電撃文庫を例にとると…
- | | | |
|-----------|---------------|------------|
| 2006年8月現在 | — 総刊行点数：1300， | 入手不可能：510 |
| 2008年8月現在 | — 総刊行点数：1632， | 入手不可能：727 |
| 増加率 | — 総刊行点数：125%， | 入手不可能：142% |